

学術にその名を借りて、カネさ
え払えば、劣悪で信頼性の著しく
低い論文をあたかも正確で斬新な
ように偽装するハゲタカ学術誌。

本誌十月号は、アカデミズムの世
界を愚弄する似非メディアの妄用
に「味の素」が手を染めていた事
実を詳述したが、あくまでも氷山
の一角だ。食品業界では、この似
非媒体を巧みに駆使した販売促進
活動が常態化している。黒ラベル
で有名な、大手飲料メーカーの中
核「サッポロビール」(以下、サ
ッポロ)とて例外ではない。

サッポロは一八七六年(明治九
年)に明治政府が設立した老舗だ
が、その前途は明るくない。グル
ープの売り上げの約半分を占める
国内の酒類市場が縮小しているか
らだ。国際会計基準の初適用とな
る二〇一八年一―六月期の決算で
売上高は二千四百十七億円(前年
同期比マイナス三・六%)、営業
損益は三十億円余の赤字となった。
逆風の同社が期待するのは、乳
酸菌事業だ。機能性表示で効能を
うたいやすくなり、他の製品との
差別化が可能になった。IR資料
には「グループ経営基盤の変革」

の項目に「独自性のある原料研究
の成果を商品開発へ」と題して、
レモン、ホップとともに乳酸菌が
挙げられている。

「カネでエビデンスを買った」

乳酸菌事業でのサッポロの目玉
はSBL88[®]乳酸菌というもの。
「長年ビール原料の研究を続けて
きたサッポロビールが一九九五年
に見つけ出した、大麦に由来する
植物性乳酸菌。二〇〇五年以来の
研究により、数多くの健康機能性
を持つことが明らかになっていま
す」と効用をアピールし、ヨーグ
ルトから豆乳、味噌にまでこの乳
酸菌を用いた商品が売っている。
その一つ、乳酸菌豆乳発酵飲料の
「明日のキレイ」は「幸せ乳酸菌
SBL88(殺菌)が一缶に八十億
個以上」と宣伝している。

サッポロはSBL88の販売に
際し、エビデンスを重視している
という。同社によれば、その働き
は「腸内バランスを整える」「肝
機能のバランスを整える」「免疫
バランスを整える」「生活リズム
を整える」の四つだそう。ホー
ムページでは、それぞれの効果を

SBL88[®] 乳酸菌

「SBL88 乳酸菌」は、長年ビール原料の研究を続けてきたサッポロビールが1995年に発見した。大腸に由来する植物性乳酸菌です。2005年以降の研究により、数多くの健康機能性を持つことが明らかになりました。SBL88 乳酸菌は、現在も私たちの完全製法で「幸せ乳酸菌(SBL88)」として提供されています。

SBL88 乳酸菌とは? 4つのはたらき

研究論文・学会発表・特許情報 Q & A

に励むこともなくなる。こんなに
有り難いことはない。

もちろん、この論文は笑止千万
の眉唾物だ。詳細に読むと、四週
の時点では、確かにSBL88撰
取群の方がガンマGTPは低かつ
た。だが、その後、上昇し、八週
の時点では逆転した。つまり、S
BL88乳酸菌は肝機能には影響
しないのだ。被験者を二つのグル
ープに分ければ、たまたま差が出
る事例はしばしば起きる。しかし、
その差が八週間持続しなければ、
SBL88の効果とは決して言え
ない。前出の内科医は「まともな
医学誌なら、こんな研究が掲載さ
れるなどあり得ない」と突き放す。

骨密度や高血圧改善の「ミタメ」

サッポロは「SBL88乳酸
菌(菌体)が腸管に働きかけて腸
でセロトニンを分泌させ、自律神
経を介して脳に作用することで、
種々の効果を示している研究結果
が得られています」と主張する。
だが、その根拠も一二年八月に
社員である中北保一氏が同じく
「フード・アンド・ニュートリシ
ョン・サイエンス」誌に掲載し

た論文だ。セロトニンは腸管から
分泌され、脳を刺激する「やる気
を起させる物質」と言われ、中
北氏らの主張は原理的には否定で
きない。しかし、ヨーグルトや味
噌に含まれる程度の量を摂取した
ところで、目に見える効果が出る
ことは極めて考えにくい。

この内科医が驚くのは、サッポ
ロがエビデンスとして提示する論
文の多くが「米国立医学図書館
データベース(PubMed)はも
ちろん、米コロラド大学デンバー
校の前図書館員ジェフリー・ビオ
ール准教授が作成したハゲタカ学
術誌のリストにも掲載されていな
い」ことだ。後者は、世界の研究

「証明」という研究結果が紹
介されている。例えば「肝機能の
バランスを整える」。サッポロの
主力商品であるビールの多飲は脂
肪肝を招く。健康志向の昨今「ビ
ールは太りやすい」と敬遠されが
ちだ。この問題を解決すべく、彼
らはSBL88に目をつけた。サ
ッポロビールを飲むときに、同社
のヨーグルトを併用することで肝

「虚構」の効能で消費者を欺く手口

サッポロビール 「健康食品」の大嘘

臓を保護できると言い出したのだ。
彼らは、そのエビデンスなるデ
ータをホームページに示した。社
員である脇田義久氏が旭川医科
大学と協力して、一二年五月に発
表した論文だ。同時に、この論文
は「フード・アンド・ニュートリ
ション・サイエンス」誌に掲載
された。出版するサイエンティフ
ィック・リサーチ社は、ハゲタカ
出版社として著名だ。専門家によ
るまともな査読はない。数十万円
の掲載料を支払えば、簡単に論文
を掲載することができる。サッポ
ロは「カネでエビデンスを買った」
(内科医)ことになる。

彼らは、飲酒が習慣化している
成人を、SBL88乳酸菌を毎日
摂取するグループと摂取しないグ
ループに分け、ビールの中瓶を毎
日二本ほど飲んでもらった。そし
て、四週間後に採血し、肝機能な
どの指標となるガンマGTPを測
定したところ、SBL88乳酸菌
摂取群で有意に低かったという。
もし、この効果が持続すれば画期
的だ。ヨーグルトを食べるくらい
で、肝機能が改善するならば、脂肪
肝に悩む男性はダイエットや運動

者が、その存在すらチェックしな
い媒体であることを意味する。競
争が激しい研究の世界で、こんな
媒体に好きこのんで自らの研究を
発表する研究者はいない。自身は
推して知るべしだ。

他にも、サッポロが誇るエビデ
ンスの中には、こうしたインチキ
雑誌に掲載されているものが少な
くない。例えば、一七年六月に県
立広島大学などと共同で発表した
論文。その内容は、カルシウムを
増やしたレモン果汁飲料を摂取す
ることで、中高年女性の骨密度や
高血圧が改善したという触れ込み
だが、この論文が掲載されたのは
「IMJ(国際医学雑誌)」。同誌
を出版するのは「世田谷文化」な
どを刊行する世論時報社で、本来
なら最新の医学

研究を扱う媒体
ではない。

サッポロが一
三年八月に同じ
く広島県立大学
と共同で発表し
た「レモン栽培
農家におけるメ
タボリックシン



怪しい商品を消費者に売りつける(SBL88のPRホ
ムページとサッポロHDの尾崎真城社長)